百人一首

⑨番から⑫番

年　月　日　曜日

名前（　　）

百人一首を書きましょう。

花の色は　うつりにけりな　いたづらに
わが身世にふる　ながめせしまに

小野小町

【現代語訳】
桜の花はむなしく色あせてしまった。長雨が降っていた間に。

これやこの　行くも帰るも　別れては
知るも知らぬも　逢坂の関

蝉丸

【現代語訳】
これが例の、都から離れて行く人も都へ帰る人も、知っている人も知らない人も、出逢いと別れをくり返す逢坂（おうさか）の関なのです。

わたの原　八十島かけて　漕ぎ出でぬと
人には告げよ　海人の釣舟

参議篁

【現代語訳】
大海原のたくさんの島々を目指して漕ぎ出してしまったと都にいる人に伝えてくれ。漁師の釣舟よ。

天つ風　雲の通ひ路　吹きとぢよ
乙女の姿　しばしとどめむ

僧正遍昭

【現代語訳】
空を吹く風よ、雲の中の通り道をふさいでおくれ。この美しい天女（てんにょ）の姿をもう少しとどめておきたいのだ。

介護現場・認知症予防応援サイト
脳トレの効果
OK プリント使用・ダウンロード無料、施設での利用可
NG 他サイトでの再配布・複製・譲渡など不可
https://orange665.com/